

色ベタ (流用)  
or  
スミベタ35<sup>14</sup>↑  
28<sup>14</sup>

流用

新井 奈々

ARAI, Nana

東京大学大学院医学系研究科  
医療倫理学分野

愛知県出身

岐阜大学・2004年卒業

&lt;所有資格&gt;

麻酔科指導医・認定医、日本医師会認定産業医、  
公衆衛生学修士 (MPH)、医学博士

## ■座右の銘

人生万事塞翁が馬

## ■これからの目標

進み続ける医療と多様な価値観の広がりの中で、倫理的な葛藤や社会的問題に直面する機会は確実に増えています。臨床倫理コンサルテーションを導入する施設は増えつつあり、質の高い臨床倫理支援の「かたち」を、実践の気づきと研究の知見をつなぎながら探っていきたいと考えています。

## ■message

私は、医療倫理という学問・価値観に出会い、医師としても人としても世界が広がったと感じています。もともと慎重な性格なので、麻酔領域とは異なる分野の大学院へ進学することは、私としては大きな決断でしたが、周りの方々のご理解とご支援に支えられて、充実した日々を過ごしています。

これから迷うことも、悩むこともあると思います。そんなときは自分に正直に、小さな一歩を踏み出してみてください。ふとした大胆さが、思いもよらなかった景色に出会えるきっかけになるかもしれません。

## みんなのプロフィール帳

## ◆ 医師を志した動機 ◆

人体の仕組みや病気に関心があり、  
医学を学ぶ学部として医学部を選択しました。

## 医学部卒業からこれまでの歩み

1年目：名古屋第二赤十字病院（現 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）初期研修

2年目：志望科を麻酔科に決める

もともと耳鼻科希望だったが、麻酔科ローテーションで手術室やICUでのスピード感や緊張感、全身管理への興味が募る。た先輩方の「麻酔科をやってから転科もありじゃない？」という甘いさやきで気持ちが傾き、麻酔科へ。

3年目：名古屋第二赤十字病院麻酔・集中治療部

麻酔とICUの両方で勤務できる環境は、手術室から病棟・ICUというシームレスな周術期管理を学ぶことができ、非常に忙しくも充実した研修生活だった。

4年目：日本周術期経食道心エコー（JB-POT）認定試験 合格

心臓手術の麻酔や周術期にわたる緻密な循環呼吸管理に感銘を受けた。

8年目：麻酔科専門医取得

10年目：心臓血管麻酔専門医取得

この頃、臨床で社会的・倫理的課題に向き合う場面が増加するも、解決の糸口がわからず日々思い悩んでいた。そんな折、日本集中治療医学会の臨床倫理講座を受講し、医療倫理の存在を知る。

11年目：集中治療専門医 取得

前年度受講した講座の縁をたどり、カリキュラムがとても魅力的な大学院を発見した。医局に所属しておらず、学術の世界ともまるで縁がなかったため、進学はかなり悩んだ。それでも「人生は一度きり」。このまま悩み続けるより挑戦しようと考え、受験を決めた。

12年目：東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻入学

医療倫理をはじめ、医療全体を俯瞰的に捉える公衆衛生を学ぶ。東海圏を離れての生活や、久しぶりの学生生活も非常に新鮮だった。多様なバックグラウンドの同級生から多くの刺激を受け、今でも続く大切な仲間ができた。

13年目：麻酔科指導医、公衆衛生修士 (MPH) 取得

学会発表やケースレポートではない、「研究」に生まれて初めて取り組んだ。試行錯誤の末に何とか院を修了した。

14年目：同大学院 社会医学専攻（医療倫理）博士課程に入学

MPHは取得したもの、臨床実践に生かせる手応えは得られずにいた。早く臨床に戻りたい、いや…もう少し医療倫理を深めて臨床に落とし込む自信をつけたい、という気持ちでかなり揺れたが、「人生一度きり（二回目）」。合わなければ引き返せばいいや！と考え進学。

18年目：博士（医学）学位を取得

在学中、東京大学医学部附属病院の臨床倫理コンサルテーションチーム（CEC）に加わり、臨床現場の倫理的問題への専門的支援を目の当たりにした。学術としての倫理学と臨床実践が結びつく姿に深い感銘を受けた。

また、他学部の先生から質的研究の手法を学ぶなどし、研究にも必死で取り組んだ。コロナ禍に伴うキャンパス閉鎖や全面オンライン化など、今思えば稀有な環境も経験した。

19年目：東京大学医学部附属病院専 従臨床倫理コンサルタント

指導教官でもあった先生のご尽力で、CECに専従する医師ポスト（おそらく日本初！）が新設され、年間100件を超える相談をいただけるように。病院診療を支えるさまざまな部門と連携し、麻酔科とは違う視点で「病院組織」にかかわる機会となった。

22年目：東京大学患者相談・臨床倫理センター センター長に就任

前センター長の突然のご栄転に伴い、センター長を拝命。同時に、本務が病院から大学へ移り、学部教育や研究に携わる機会が一気に増えた。病院の倫理コンサルテーションとの二足のわらじで、落ち着く間もないが充実した毎日。